

プラハ音楽院修了生の体験記

ピアノ部門



ミラン・ランガー教授とプラハ音楽院内のコンサートホールにて

仙石康子(セミナー10回生：留学期間2010年9月～2013年6月)岐阜県出身

大学院在学中、高校の恩師からプラハ音楽院の留学選考会が岐阜で受けられると教えて頂き、「ぎふプラハ音楽院セミナー」を受講しました。高校、大学とピアノに対する自信を失くしかけていた私にとって、これが最後のチャンスだと思い、留学選考会を受け、プラハ音楽院でミラン・ランガー教授のもと学ぶこととなりました。

言葉も通じない初めての外国生活でしたが、音楽院の先生方をはじめ、チェコ在住の日本人の方々が温かく見守って下さり、また留学生の仲間たちと助け合いながらの3年間を過ごしました。

チェコの首都プラハは、中世の街並みが残る歴史と芸術の美しい街です。毎日、オペラ、バレエ、コンサートがホールや教会などで開催されています。私は毎週金曜日に、学校のすぐ向かいにあるルドルフィヌム(音楽公会堂)で行われているチェコフィルハーモニーのコンサートに通いました。習いたての片言のチェコ語を使ってチケットを購入し、多くの演奏会に足を運びました。いつでも手の届くところに最高の、本物の音楽がある事はとても貴重なことだと思います。当時の作曲家に思いを馳せ、歴史と共に多くのことを学びました。

留学生は、専攻楽器のレッスン、チェコ語、オーケストラ、室内楽などを受講しています。週1回校内コンサートがあり、多くの本番に挑むことにより力をつけていきます。

何をするにも日々全てが勉強、“やってみる！”がとにかく大切です。ピアノは、基本的にステージでは一人。練習ももちろん一人です。結局は自分自身。

音楽を演奏するための勉強だけでなく、今まで自分の生き方について見直すことができ、この経験は大切な人生勉強となりました。

私にこのような機会を与えてくださった岐阜県教育文化財団と岐阜県チェコ友好協会、お世話になった多くの皆さん、留学生の仲間たち、見守り続けてくれた家族に感謝し、自分が身につけてきた事が誰かの役に立つことができればと思います。

現在は、チェコ音楽の研究を続けると共にチェコの作曲家をコンサートで紹介したり、「ぎふプラハ音楽院セミナー」のお手伝いをさせて頂いております。

プラハ音楽院には、レギュラーコース(全科目を履修、チェコ語の知識が必要、有料)とスペシャルコース(特定の科目を履修、英語による授業で有料)があります。日本の留学生のほとんどはスペシャルコースで勉強します。基本的には専攻楽器のレッスンのみ履修される方が多数です。音楽院でチェコ語を履修すると日本語の話せる先生が教えてくれますが、音楽院以外で習う方もいます。

授業料は教科によって異なりますが、専攻楽器の年間レッスン(45分)×80回=100,000コルナで、このほかに21%の税がかかり、支払いは現金のみです。また、チェコ語は週一回ほどのレッスンで24,000コルナです。

下宿代は10,000コルナ～17,000コルナ程度です。おおむね家具付き(ベッド、テーブルなど)、暖房設備付きです。住宅には防音設備が無く、楽器の音による苦情が発生し、トラブルが多いので注意する必要があります。プラハで音楽留学生が部屋を探す際、練習できるかの判断材料として、下記2点を考慮するとよいでしょう。

①壁の種類(チェコの住宅には、レンガと薄いパネル板の壁があり、レンガ壁であることが必須です。)

②間取り(隣人と接していない部屋で練習できれば、より安心して音を出すことができます。)

・光熱費、公益費は下宿代と別になっている場合があります。

ピアノは学校に問い合わせれば、レンタル会社を紹介してくれます。グランドピアノはなく、アップライトピアノです。レンタル料は、1ヶ月平均500～1000コルナです。(運搬料25,000円程度)

《1コルナ=約5.1円(2017年11月現在)》